

大西洋クロマグロ 西大西洋

Atlantic Bluefin Tuna, *Thunnus thynnus*



管理・関係機関

大西洋まぐろ類保存国際委員会 (ICCAT)

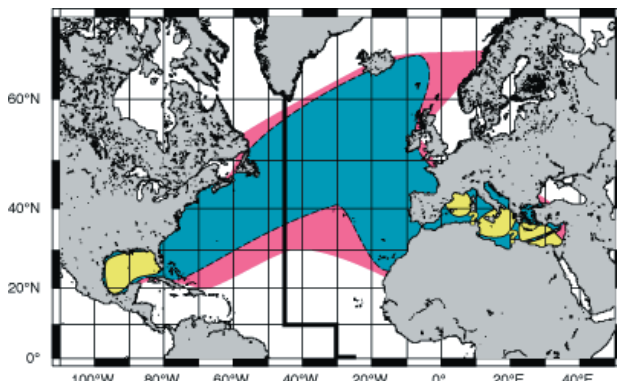
最近一年間の動き

西大西洋クロマグロの漁獲量は、1982年に漁獲規制導入後で最大の漁獲量（3,319トン）であった2002年以降減少し続けており、2007年の漁獲量は1,623トンとなった。これは、米国の漁業の不振によるものである。2009年と2010年のTACはそれぞれ、1,900トンと1,800トン（日本は330トンと311トン）である。

大西洋まぐろ保存委員会大西洋クロマグロ資源評価会議が2008年6月にスペイン、マドリッドで行われ、本会議において本種の資源評価が行われた。

生物学的特性

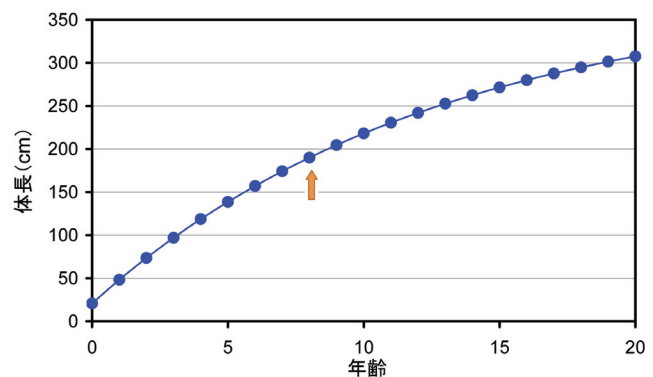
- 寿命：20歳以上
- 成熟開始年齢：8歳
- 産卵期・産卵場：5～6月、メキシコ湾
- 索餌場：北緯35°以北の北大西洋
- 食性：魚類、甲殻類、頭足類
- 捕食者：まぐろ・かじき類、さめ類、海産哺乳類



大西洋クロマグロの分布域と主要漁場、産卵場。索餌場は産卵場を除く分布域。縦太線は東西の系群の区分。

利用・用途

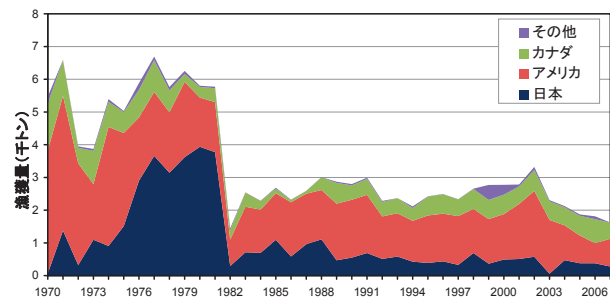
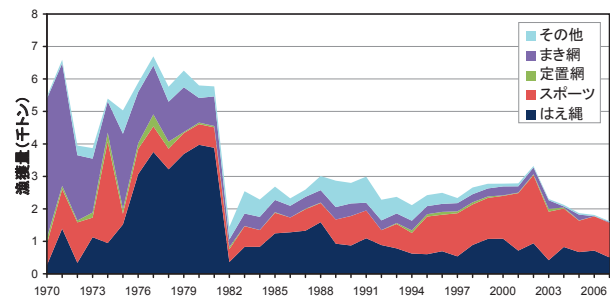
刺身・すしなど



大西洋クロマグロ（西系群）の成長曲線。図中の矢印は成熟体長を示す。

漁業の特徴

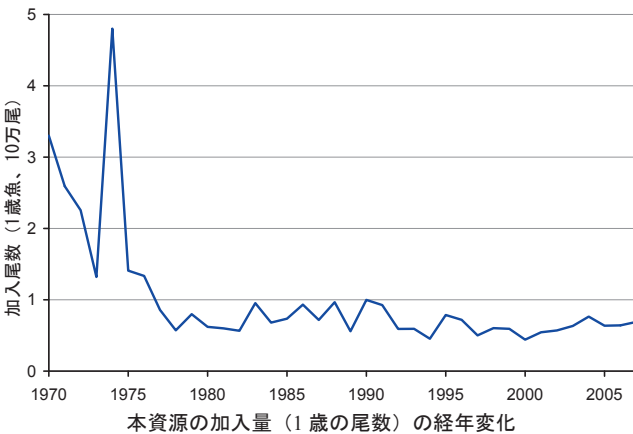
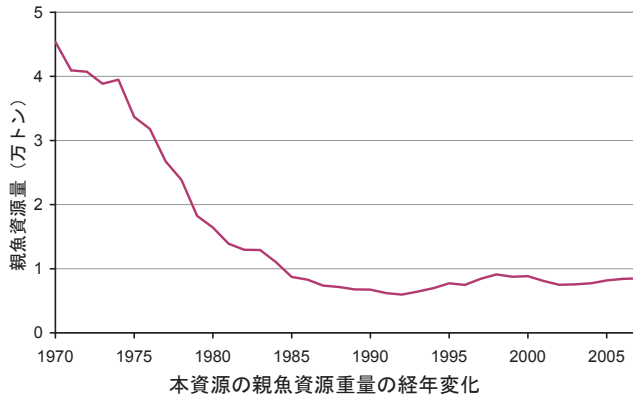
主な漁業国では、日本ははえ縄のみを、米国は釣りを主体にはえ縄・まき網を、カナダは釣りを主体にはえ縄の操業をする。漁期は日本が11～3月、米国が主に7月～11月、カナダは8～11月である。



本資源の年別漁法別漁獲量（上）と年別国別漁獲量（下）。漁獲量には投棄分も含まれる。（データ：Anon. 2007）

漁業資源の動向

漁獲規制により1983年以降ほぼ2,500トン前後となっている。2004年以降米国漁業が不漁で漁獲割当量を満たせない状態が続いている。2007年から2008年までのTACは2,100トンで、そのうち日本は380.47トンであった。



資源状態

推定された親魚資源量（8歳以上）、加入尾数（1歳魚）を上を示す（ICCAT 2006）。親魚資源量は1970年以降減少を続け、1990年代にいったんその傾向が止まった。しかし、1998年以降わずかに減少傾向が見られ、2005年の親魚資源量は1975年の24%となっている。加入は1976年以降低いレベルで安定している。

管理方策

1998年に、ICCATは2018年までに50%以上の確率で最適な資源状態に回復させるという計画を決定した。しかし、同科学委員会は2008年の資源評価において、親魚資源量の回復ペースは当初の計画よりも遅いため、今後これ以上のTACを増加させず、50%以上の確率よりも高い確率での管理方策が推奨された。2008年の年次会合は2009・2010年のTACをそれぞれ、1,900トンと1,800トン（我が国は330トンと311トン）とした。他の規制は、115 cm（または30 kg）未満の漁獲量制限（国別に10%）を併せて実施中である。

資源評価まとめ

- 資源評価はICCATの科学委員会において実施
- 親魚資源量は低位でやや減少傾向
- 加入尾数は低いレベルで安定
- 不確実性は大きく資源水準は不明

資源管理方策まとめ

- 2018年迄に50%以上の確率で最適な状態に回復させる
- ICCAT科学委員会は50%以上の確率での管理方策を推奨
- 2007年と2008年のTACはそれぞれ、1,900トンと1,800トン
- 小型魚漁獲制限
- 漁獲証明制度（CDS）

大西洋クロマグロ（西大西洋）の資源の現況（要約表）

資源水準	低位
資源動向	横ばい
世界の漁獲量（最近5年間）	1.6～2.3千トン 平均：1.9千トン （投棄を含む）
我が国の漁獲量（最近5年間）	57～470トン 平均：311トン